

宮沢賢治研究 *Annual*

Vol.9



1999

宮沢賢治学会イーハトーブセンター

182049

宮沢賢治研究 *Annual*

Vol.9



1999

宮沢賢治学会イーハトーブセンター

宮沢賢治研究 Annual 第九号

一九九九年三月二二日発行（非売品）

編集 宮沢賢治学会イーハトーブセンター編集委員会

杉浦 静（委員長）
大塚 常樹、鈴木 健司
中地 文、望月 善次

発行所 宮沢賢治学会イーハトーブセンター

〒035-0024 岩手県花巻市高松1-1-1

電話（0198）311-2126

FAX（0198）311-2132

宮沢賢治研究 Annual
Vol. 9
1999

宮沢賢治ビブリオグラフィ 98

作品集

4

作品翻訳

4

特集・論集

5

研究・評論

11

国語教育

39

書評

43

対談・座談・インタビュー

43

ビブリオグラフィ

45

エッセイ・その他

46

通信・その他

57

新 聞	58
-----	----

95 年日録補遺(3)	75
-------------	----

96 年日録補遺(2)	75
-------------	----

97 年日録補遺(1)	79
-------------	----

索 引	85
-----	----

国語教科書に掲載されている宮沢賢治の作品	105
----------------------	-----

宮沢賢治ファイルモグラフィ	106
---------------	-----

宮沢賢治ディスコグラフィ	108
--------------	-----

『銀河鉄道の夜』――初期形、最終形、決定稿	111
-----------------------	-----

地学からみた「樫ノ木大学士の野宿」	123
-------------------	-----

「初期短篇綴」クロニクル・「柳沢」編 …… 柳 昌子 …… 142

〈資料紹介〉リップス『美学大系』
(書き入れ本) …… 杉浦 静 …… 160

再録論文

宮沢賢治の詩「春と修羅」の記号学的分析

John A.F.Hopkins (ジョンA.F.ホプキンス)

岡村民夫訳(著者監修) …… 187

Q & A

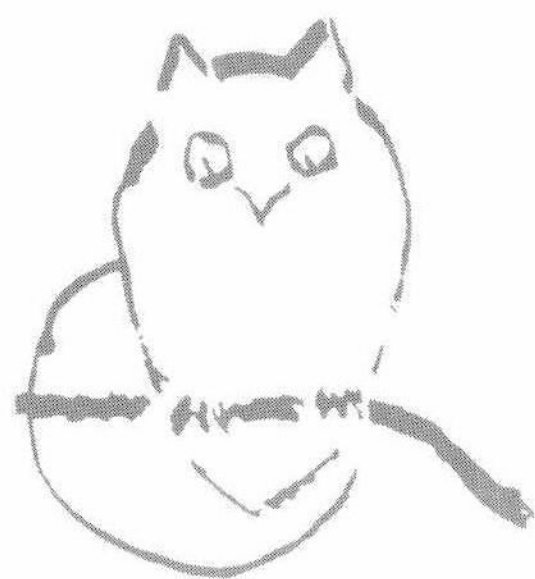
…………… 225

前号の訂正および追補…………… 228

宮沢賢治学会イーハトーブセンター規約 229

宮沢賢治研究 Annual への投稿について 232

編集後記 234



宮沢賢治

ビブリオグラフィ

一九九八年一月—十二月

作 成

安藤 恭子 大塚 常樹 岡村 民夫 奥田 弘幸 奥山 文幸 小原 敏男 栗原 敦子 澤田 由紀子 杉浦 静司 鈴木 健司 高橋 世織 中地 昌文 萩原 信一 平澤 健郎 宮川 善次 望月 知子 山根 文憲 吉田 文憲

(新聞は主として奥田弘、小原敏男が担当した)

協 力 銀 河 の 会

凡例

一、この目録は、一九九八年一月から二月までに発行された図書・雑誌・新聞を対象にした。

一部言及のものについては原則として本目録に記載しないが、その言及が記載・参照する価値・必要があると判断される場合には「一部言及」として特にコメントを付しつつ、記載することがある。

二、内容・形式等により次のとおり分類し、配列・記載事項については各分類別に記した。

なお、研究・評論についてはすべて要約を記し、その他適宜参考事項を付した。

【作品】

- ・配列は刊行順
- ・記載事項は、『書名』編著者、発行所、発行年月、頁数、大きさ（cm）、箱・カバー等、定価、収録作品、参考事項の順

【作品翻訳】

- ・前項に準ずるが、書名の次に訳者名、発行所には所在地名を付け加えた。可能なかぎり、原語により、コメントに邦語原題と訳題を列記するようにした。

【論集・特集】

- ・配列は刊行順
- ・記載事項は、『書名』または誌名、巻号、発行所、発行年月、収録論文等の順

【研究・評論】

- ・配列は著者名の第一音からの五十音順（第一音が同音の場合は、カタカナ・ひらがな・漢字字画の少ない方の順）、アルファベット順、同一著者複数項目の場合は発表順

・著者・執筆者が三人以上の複数、A氏、B氏、C氏、…の場合は、原典配列一位のA氏でまず立項し、B氏、C氏…も立項するが、B氏以下はコメントを省略。「A氏」の項へ送り記号を付す。

・著書の記載事項は、著者名『書名』発行所、発行年月、総頁数、大きさ（cm）、内容要約の順

・論文は、筆者名「題名——副題——」誌名（あるいは著書・所収論集名）、巻号、発行機関、発行年月、所収頁数—頁数、内容要約の順

【国語教育】

- ・前項の研究・評論に準ずる。

【書評】

・配列は書評対象書の著者名の五十音順（「研究・評論」の項参照）

・記載事項は、対象著者名、書名のあと書評者名、所収誌名、以下前項に準じる。

【対談・座談・インタビュー】

- ・研究・評論の複数執筆者の場合に準じる。

【ビブリオグラフィ】

- ・研究・評論の項に準じる。

【エッセイ・その他】

- ・研究・評論の項に準ずる。

【通信・その他】

- ・配列は紙名の五十音順
- ・記載事項は、紙名、発行所、巻号、発行年月の順

【新聞】

- ・配列は紙名の五十音順（外国紙名の場合は仮名読み表記を考えて配列）、各紙とも日付順、朝・夕刊順にあげ、同日付けの記事は、ページ順に掲げた。
 - ・全国紙のページは、特記した以外は岩手版によった。
 - ・「夕刊」の特記のないものは朝刊を示している。
 - ・見出しは、適宜、取捨し改めたものがある。
 - ・「」内には、記事の内容を補った。また、必要に応じて、研究・評論の場合に準じたコメントを付したものがある。
 - ・テレビ・ラジオ番組は、各紙配列の最後にまとめた。
- 三、参照する項目がある場合は、その項目の番号（既刊のものはその巻数も）を次のように示した。

（↓番号）（↓vol.巻数―番号（補遺の場合は、刊行年―番号））

お願い

本目録に記載されていない図書について、ご寄贈、または入手方法などのご教示をお願いいたします。

宮沢賢治学会イーハトーブセンターでは会員の皆様に広くご利用いただけるよう、資料の充実に努めています。

【作品集】

01『ゼロ弾きのゴーシュ』角川書店、98年1月、127頁、11 cm
(角川ミニ文庫)、200円

「ゼロ弾きのゴーシュ」「やまなし」「よだかの星」「ひかりの素足」、注釈・大塚常樹

02『宮沢賢治詩集』吉田文憲(編)、角川春樹事務所、98年4月、253頁、15 cm(ハルキ文庫)、540円＋税

吉田文憲「生命体をとらえる未知の言葉」223―237頁(↓195)、畑中純「エッセイ サンボリズムより散歩のリズム」238―241頁

03『ゼロ弾きのゴーシュ』高畑勲・監督、徳間書店、98年4月、103頁、26頁、1千500円＋税

一九八〇年に制作されたアニメ『ゼロ弾きのゴーシュ』(オープロダクション)をもとに、絵本用に構成したもの。

村田耕一「解説」102―103頁

04『賢治のうた絵本』吉田教子(発行、私家版)、98年6月、13頁、18 cm

「精神歌」「星めぐりの歌」「種山ヶ原」「月夜のでんしんばしら」「牧歌」「ポランの広場」の楽譜と絵で構成。

【作品翻訳】

05『The Twin Stars 双子の星』サラ・ストロング(翻訳)、国際言語文化振興財団、98年3月、47頁、21 cm(英語版 宮沢賢治絵童話集4)

解説において、ポーセへの妹トシの投影、星めぐりの歌とピタゴラス学派天球の音楽との関連、双子の星のモデルとなった可能性のある星座など、先行研究の紹介がなされている。(鈴木)

06『The Beare of Mt.Namaneke なめとこ山の熊』カレン・コリガン・テイラー(翻訳)、国際言語文化振興財団、98年10月、31頁、21 cm(英語版 宮沢賢治絵童話集5)

解説において、生命の循環という視座から、『またぎ』としての小十郎の命を、農民・商人のそれと区別し、熊や月の側に属するものとして分析している。(鈴木)

07『Les Pieds nus de lumiere』Helene Morita訳、LE SERPENT A PLUMES、98年10月、247頁、21 cm

フランス語訳童話集。栗谷川虹「VOILA COMMENT JE VOIS KENJI MIYAZAWA…」(↓300)を序文とする。収録作品は次のとおり。

「櫛ノ木大学士の野宿 (Les nuits à la belle étoile du savant Professeur Chêne)」 「土神と狐 (Le Dieu de la terre et le Renard)」 「チャウリップの幻術 (Griserie au vin de

- tulipe)」「林の底 (Le Milan teinturier)」「注文の多い料理店 (Chez le lynx)」「ちののっかひ (Narao et les trois singes)」「十月の末 (Une fin d'octobre)」「紫紺染について (L'Homme des montagnes et le grémil)」「鳥箱先生とフナギサ (Le Professeur Boîte-à-oiseaux et la souris Founh)」「ヤー・ハート・ボ農学校の春 (Le printemps à l'école agricole d'Ihatovo)」「あふぐふと猫 (Le Lynx et les Glands)」「黄ふくのトマト (Le Tomates jaunes)」「ブグノリノ木 (Les Magnolias)」「よだかの星 (L'Étoile du faucon de la nuit)」「マリブランと少女 (La Malibran et la Jeune Fille)」「ひかりの素足 (Les Pieds nus de lumière)」
- 08 『GAUCHE THE CELLIST ヤロ弾きのゴーシュ』天沢退二郎 (監修)・Roger Pulvers (英訳)・司修 (絵)・林光 (音楽)、ラボ教育センター、98年12月、47頁、30 cm (Sounds in Kiddyland:Series 27) 2千100円+税 (CDは賢治作品のシリーズ4巻1セットで別売、8千600円+税)
- 「ヤロ弾きのゴーシュ」

- 09 『Snow Crossing 雪渡り』天沢退二郎 (監修)・Roger Pulvers (英訳)・司修 (絵)・林光 (音楽)、ラボ教育センター、98年12月、49頁、30 cm (Sounds in Kiddyland:Series 27) 2千100円+税 (CD別売)
- 「雪渡り」

- 10 『THE RESTAURANT OF MANY ORDERS 注文の多

い料理店』天沢退二郎 (監修)・Roger Pulvers (英訳)・司修 (絵)・吉川和夫 (音楽)、ラボ教育センター、98年12月、41頁、30 cm (Sounds in Kiddyland:Series 三) 2千円+税 (CD別売)

「注文の多い料理店」

- 11 『The Story of the ZashikiBokko ゑしき童子のはなし』天沢退二郎 (監修)・Roger Pulvers (英訳)・司修 (絵)・林光 (音楽)、ラボ教育センター、98年12月、35頁、30 cm (Sounds in Kiddyland:Series 27) 2千円+税 (CD別売)
- 「えしき童子のはなし」「雨ニモマケズ」「永訣の朝」「星めぐりの歌」

【特集・論集】

- 12 宮沢賢治、第15号、洋々社、98年3月

巻頭エッセイ 岡井隆「「永訣の朝」の表現の重層性について」10—15頁 (↓72)、井坂洋子「特別な尊菜」16—19頁 (↓42)、岩成達也「二重括弧の罫の中から」20—30頁 (↓54)

【特集】妹トシと「永訣の朝」 松永伍一「挽歌の後先」32—37頁 (↓178)、杉浦静「おまえとみんななどに聖い資糧をもたらすやうに——「永訣の朝」の成立——」38—51頁 (↓117)、菅原千恵子「トシの「自省録」を通して見えてきたもの」52—69頁 (↓116)、

柴田まどか「雪に託した賢治の願い」70—83頁(↓105)、中野由貴「聖なるアイスクリーム」84—91頁(↓152)、相馬正一「鎮魂賦「永訣の朝」の虚実——(あめゆじゅとてちてけんじゃ)」92—109頁(↓126)

吉田文憲(特別講義)「モナド化された身体が開くことば」110—129頁(↓194)、大沢博「書簡にみる賢治の食生活」130—131頁(↓288)、久慈力「賢治と住民自治」132—133頁(↓297)、米田利昭「賢治の出現—ブドリとネネム—」134—141頁(↓197)、奥山文幸「銀河鉄道と猫バス—「銀河鉄道の夜」と「となりのトトロ」の風—」142—152頁(↓75)、書評「斎藤文一著『宮沢賢治の空中散歩』」153頁、多田幸正「宮沢賢治と『内なる旅』」154—164頁(↓131)、佐々木君紀「『ほんとうのたべもの』はどこへ行った」166—169頁(↓302)、岡本小夜子(特別エッセイ)「素顔の賢治さん」170—173頁(↓292)、書評「芹沢俊介著『宮沢賢治の宇宙を歩く』」174頁、【わが賢治】第14回 牧野立雄(インタビュー)「梅原猛氏に聞く共生と循環の世界—宮沢賢治と私の哲学—」175—191頁(↓244)、西山泰男「産業組合から賢治文学者へ」192—206頁(↓157)、書評「中野由貴著『宮沢賢治のレストラン』」206頁、書評「福島泰樹著『宮沢賢治と東京宇宙』」207頁、編集部「賢治新聞アラカルト(平成8年1月—11月)」、田口昭典「【連載第15回】賢治研究の展望」212—235頁(↓255)、書評「高橋康雄著『〈注文の多い料理店〉伝』」236頁、読者投稿欄 一条節子「賢治と陽水」237—238頁、橋川篤子「賢治生誕百年に思うこと」238—239頁、竹本すみれ「自分の存在意義」239—240頁

13 宮沢賢治研究 Annual、第8号、宮沢賢治学会イーハトーブ

センター、98年3月

天沢退二郎・他「宮沢賢治ビブリオグラフィ」1—131頁(↓253)、鳥羽耕史「宮沢賢治フィルムグラフィ」132—142頁(↓256)、杉浦静・中村節也「宮沢賢治ディスコグラフィ」143—146頁(↓254)、澤口勝弥「宮沢賢治『税務署長の冒険』—その社会的背景と租税思想—」147—169頁(↓101)、多田実「カルボナード島—探鉱者の視点より—」170—184頁(↓132)、富山英俊「宮沢賢治の詩の実現」185—200頁(↓143)、島田隆輔「(冬のスケッチ)原状に迫る試み／現存稿(広)グループ・標準型(一)における」201—219頁(↓109)、伊藤光弥「検証・南斜花壇」220—235頁(↓48)、中村節也「賢治のうたった星」236—246頁(↓153)、森本智子「宮沢賢治と「装景」—「虔十公園林」を中心に—」(再録論文)247—257頁(↓vol.7・504)、佐藤栄二「短編「電車」の〈鼠の天ぷら〉考」(研究ノート)258—261頁(↓90)、Q&A「定稿用紙の失われた「文語詩稿」—百篇「作品」262—265(↓299)

14 宮沢賢治学会イーハトーブセンター会報、第16号・黄水晶、宮沢賢治学会イーハトーブセンター、98年3月

安部ねり「「ねり」という名前」2—3頁、第8回定期リレー講演(要旨) 澤口勝弥「宮沢賢治の「税務署長の冒険」」6—7頁、中村青路「宮沢賢治と俳句」7—8頁、上野ゆたか「ビジテリアン賢治の謎」8—9頁、対馬美香「『毒蛾』の床屋さん」9—10頁、大藤幹夫「〈わかる〉ということ」10—11頁、鶴田静「イーハトーブの食事学」12—13頁、板谷栄城「投稿エッセイ不許漢訳」14—15頁、中村節也「聞き書き 大津三郎のこと」16—17頁、栗原敦「宮沢賢治資料24／書簡(四通)」18—19頁、天沢

退二郎「宮沢賢治資料25／生前批評・『春と修羅』の新刊紹介（無署名・東京日日新聞）」20—21頁、天沢退二郎「テキスト・クローズアップ16 ひのきとひなげし」〔初期形 二〕24—25頁、根津道子「報告 熊谷・秩父地方セミナーを終えて」26—27頁、齊藤征義「三朝セミナー カンパネルラをさがしてもむだだ」28頁、米田康男「'97冬季セミナー要旨 美しい星空／ミヤザワケン ジ星誕生」29頁、桜田恒夫「宮沢賢治・植物の世界」30頁、西成彦「非対称のバランス／宮沢賢治の方法」31—33頁

15『春と修羅』第二集研究』宮沢賢治学会イーハトーブセンター編、宮沢賢治学会イーハトーブセンター、98年3月、315頁、22cm

第一回 パネルディスカッション 天沢退二郎（コーディネーター）・杉浦静（レポーター）・安藤恭子・入沢康夫・栗原敦（パネリスト）「春と修羅 第二集」の《成立》の問題」3—52頁（↓237）

「春と修羅 第二集」のさまざまな魅力 萩原昌好「第二集における『イーハトーボ』の魅力—地誌と風土—」53—74頁（↓160）

第二回 「第二集」における「鳥」 天沢退二郎「イントロダクション」77—80頁（↓36）、杉浦嘉雄「春と修羅 第二集」に登場する鳥たち」81—136頁（↓120）

神昌子「春と修羅 第二集」の女性たち」137—154頁（↓97）、秋枝美保「春と修羅 第二集」における女性—詩「北上川は焚気をながし伊」を中心に—」155—175頁（↓33）

第三回 《宇宙論》としての「春と修羅 第二集」 天沢退二

郎「イントロダクションにかえて よだかの星—第二集—銀河鉄道の夜」179—181頁（↓37）、大沢正善「春と修羅 第二集」の宇宙をめぐる想像力—「二七九「北いっばいの星ぞらに」を中心に—」182—196頁（↓66）、斎藤文一「第二集」に見られる宇宙観」197—212頁（↓95）

第四回 金子民雄「春と修羅 第二集」に見る西域」215—236頁（↓79）

パネルディスカッション 天沢退二郎・入沢康夫・栗原敦・杉浦静「春と修羅 第二集」のゆくえ—結論にかえて—」237—266頁（↓238）

作品論 中地文「二二六 海鳴り」考」269—277頁（↓148）、鈴木健司「「北上川は焚気をながし伊」における兄妹の構図—よだか・かはせみ・はちすずめ—」278—285頁（↓123）、平沢信一「祀られざるも神には神の身土がある—「産業組合青年会」と「夜の湿気と風がさびしくいりまじり」—」286—294頁（↓165）、島村輝「三八四 告別—「光でできたパイプオルガン」—」295—301頁（↓111）、木村東吉「銀河鉄道の朝—「岩手軽便鉄道の一月」考—」302—309頁（↓81）

16論攷宮沢賢治、第1号、中四国宮沢賢治研究会、98年3月

秋枝美保「詩章『青森挽歌』・童話「サガレンと八月」における心的体験の克服の行方—「春と修羅」第二集前半の下書稿（一）（二）段階の構想—」1—16頁（↓34）、段裕之「宮沢賢治と植民地主義—テキストの国境線—」17—29頁（↓138）、島田隆輔「（冬のスケッチ）本文手入れ時期に関する覚書—《文語詩稿》とのかかわりから—」30—36頁（↓108）、平沢信一「定稿紛失作品「早

害地帯」の本文校訂に関わる一試論——「詩人時代」第5巻3号（昭和10年3月）掲載形に拠りつつ——37—44頁（↓166）、鈴木健司「土佐の詩人岡本弥太の宮沢賢治理解——測定された一つの宇宙（新資料を踏まえて）——」45—61頁（↓124）、木村東吉「賢治と緑石の一面」62—74頁（↓82）、「研究会の記録」75—77頁

17 賢治研究、第75号、宮沢賢治研究会、98年4月

小林俊子「宮沢賢治の詩におけるローマ字表記・外国語表記——その象徴的表現——」1—10頁（↓86）、尾曾ほかり「資料紹介 藤原嘉藤治と鳥羽源蔵」11—21頁（↓64）、松田嗣敏「宮沢賢治は「イギリス海岸」をいつどこで書いたのか」（「風と光」欄）21—22頁（↓176）、中谷俊雄「水仙月の四日」をめぐって」23—32頁（↓145）、伊藤博美「水汲み」の底流（上）33—37頁（↓45）、伊藤雅子「蓋のさまなる雲」（「風と光」欄）38頁、三神敬子「宮沢賢治友への手紙」をめぐって（十二）39—45頁（↓180）、宮沢哲夫「新刊めぐり（24）」46—47頁、梅木万里子「花巻だより 地元の方々が届けてくれる「ひと足早い春」」48—50頁、村上英一「研究会だより」51—52頁、杉田英生「事務局雑編」53頁、宮沢哲夫「編集後記」54頁

18 クラムボン、第2号、宮沢賢治研究会風信社、98年5月

吉田文憲「臨終のエピソードから」2—5頁（↓406）、高橋重美「波動場のコミュニケーション——「鹿踊りのはじまり」に見る共振する重層〈奏〉空間——」6—15頁（↓135）、築田英隆「賢治童話はレヴェューする——『注文の多い料理店』と民衆娯楽——」16—23頁（↓142）、平澤信一「宮沢賢治——『遷移』の詩学——」24—32頁（↓167）

19 ワルトラワラ、第9号、ワルトラワラの会、98年5月

松田司郎「イーハトーブ写真館⑨ おキレの角」6—12頁（↓383）、松田司郎「宮沢賢治のめざしたもの／第6回・扉のむこうへ 第2部・銀河鉄道の終着駅(2)」13—29頁（↓174）、牛崎敏哉「イーハトーヴ・異界への旅(9)縄文の国・愛欄土」30—40頁（↓55）、藤原義孝「賢治植物考（連載第9回）烏瓜と四次元の植物」41—47頁、高山勉「イーハトーヴ星空案内所 第三回・彗星・くじら座・うみへび座」48—54頁、板谷栄城「ライカン（山県頼威）の鉱物講義 ワルトラワラ分校の特別授業」55—63頁（↓274）、中野由貴「イーハトーヴ料理館⑦新校本宮沢賢治全集校異篇をたべる その1」64—70頁（↓351）

20 賢治研究、第76号、宮沢賢治研究会、98年8月

大橋富士子「宮沢賢治と国柱会」1—12頁（↓70）、赤田秀子「アイアンビック」（「風と光」欄）12頁（↓30）、小林俊子「表現からみた賢治の転換期——三二六（風が吹き風が吹き）を中心に——」13—22頁（↓87）、藤原司「賢治の未来のエネルギーへの発想（下）」23—30頁（↓169）、伊藤雅子「タアナアのさらどの色」（「風と光」欄）30頁、中谷俊雄「大循環の風」31—36頁（↓147）、三神敬子「宮沢賢治 友への手紙」をめぐって（十三）37—46頁（↓180）、松田嗣敏「宮澤文学にあらわれた「喩」としての『漢和対照 妙法蓮華経』」小考」47—49頁（↓177）、伊藤博美「水汲み」の底流（下）50—54頁（↓46）、高橋富士子「二十四節気・白光華のイーハトーブ」55頁、宮沢哲夫「新刊めぐり（25）」56—57頁、村上英一「研究会だより」58—59頁、梅木万里子「花巻だより 岩手山の火山活動化」60—61頁、杉田英生「事務局雑編」

64頁、宮澤哲夫「編集後記」65頁

21『宮沢賢治の農民観を知るために 復刻「濁酒に関する（第一報）」』センタード賢治の会、98年8月、117頁、26cm

原子朗「濁密・しろうま・酒ざらい」『濁酒に関する調査』復刊によせて「9—13頁（↓162）、佐々木靖章「宮沢賢治と濁酒密造」15—22頁（↓89）、田口富士雄「旧農林省経済更生部積雪地方農村経済調査所について」23—24頁、積雪地方農村経済調査所「復刻「濁酒に関する調査（第一報）」」27—104頁、澤口勝弥「濁酒に関する調査（第一報）」復刊にあたって「105—116頁（↓102）」

22かまくら・賢治、第2号、鎌倉・賢治の会、98年10月

宮澤哲夫「わたくし」とはなにか「春と修羅」の「序」にみる自己像「5—9頁（↓182）、井上定「はるかなる賢さんへ—平成という世紀末からのファックス—」10—11頁、藤原治子「人間は犬になれますか」12—14頁、中田幸枝「風をつかまえる人」15—19頁、遠座公一郎「ながーいながーい岩手のお話」19—22頁、白岩建二「カムパネルラの館を訪ねて—河本義行（緑石）のふるさと—」23—28頁、阿部秋子「娘と花巻を訪れて」28—31頁、高橋富子「宮沢賢治と「北上夜曲」」32—33頁、森本知行「本来僕はカオスであった」34—35頁、関戸昭子「東が子・西が母・南が臨終人・北が争う人」36頁、山本すみ子「宮沢賢治を訪ねる旅」39—40頁、野田文紀「賢治の愛した山をめぐる」40—42頁、椿ひとみ「宮沢賢治について思う」42頁、津村留美「賢治にふれて」42—43頁、大竹由美子「読んでいただけなかった「かま猫通信」

と手紙」45—54頁、事務局編「鎌倉・賢治の会 第四期

（97.9—98.5）の歩み」55—73頁、菊地登女子「鎌倉・賢治の会へ出席して—怠け者の一聴講生より—」58—59頁、山崎昭子「四次元の方角」60—61頁、岡本剛一「いのちとの共感の宇宙」—「度十公園林」を中心にして—「61—62頁、宮崎修市「賢治・ゴッホ・萬鉄五郎」を聞いて」63—64頁、勢村紀代子「わかった！賢治はアーチストだね」65—66頁、鹿島裕子「私の鎌倉・賢治の会」67—69頁、佐藤稔「春と修羅」を読む」70—71頁、椿ひとみ「賢治の心理学「献身という病理」を聞いて」72頁、池田和歌子「第四期「鎌倉・賢治の会」を振り返って」73頁、事務局「鎌倉・賢治の会」へのお誘い・会則」74頁、事務局「会員名簿」75—76頁

23『日本文学研究論文集成35 宮沢賢治』安藤恭子（編）、若草書房、98年11月

九〇年以降の研究動向を概括する既発表論文の選集。

島村輝「手稿研究のコスモロジー」7頁—15頁（↓113、vol. 3 113）、天沢退二郎「《Versions》としての賢治作品・序説」16頁—21頁（↓39、vol. 7 120）、杉浦 静「〈春と修羅〉の行方—賢治晩年の詩稿整理—」22頁—40頁（↓118、vol. 2 114）（初出以後の論旨の訂正を付記として追補）、栗原 敦「〈禁欲〉の行方」41頁—52頁（↓85、vol. 6 146）、大塚常樹「宮沢賢治と電気エネルギー、電氣的イメージ」53頁—72頁（↓68、vol. 4 64）、日高昭二「イーハトーヴォの米 宮沢賢治・真壁仁・井上ひさしの系譜」73頁—83頁（↓164、vol. 6 293）、赤坂憲雄「山の神の祭り」84頁—95頁（↓28、vol. 4 37）、内藤正敏「宮沢賢治と佐々木喜善—異界・エスペ

ラント・宗教―」96頁―120頁〔↓144、vol. 7、400〕、和田茂俊「モダニズム文芸における〈感覚〉の発見―江戸川乱歩からの視覚―」121頁―136頁〔↓200、vol. 5、245〕、高橋世織「ビオメハニカと賢治演劇」137頁―146頁〔↓136、vol. 3、139〕、奥山文幸「賢治とキネオラマ―冬のスケッチ―」論147頁―154頁〔↓76、vol. 6、108〕、対馬美香「宮沢賢治の絵画―萩原朔太郎「月に吠える」挿画の投影―」155頁―167頁〔↓141、vol. 2、132〕、中村三春「〈統合〉のレトリックを読む―修辞学的様式論の試み―」168頁―183頁〔↓154、vol. 2、141〕、平澤信一「大正末／昭和初年の宮沢賢治評価―「詩神」を軸として―」184頁―201頁〔↓168、vol. 6、296〕、千葉一幹「宮沢賢治にさからって―文学の多様性をめぐる一考察―」202頁―223頁〔↓140、vol. 5、158〕、櫻井 進「ユートピアの変容 イーハトーヴオ・世界最終戦争・大東亜共栄圏」224頁―248頁〔↓100、vol. 6、167〕、西 成彦「植民地主義のはじまり」249頁―258頁〔↓156、vol. 5、179〕、安藤恭子「〈宮沢賢治〉の表現をめぐって―「鳥の北斗七星」における擬人法―」259頁―268頁〔↓40、vol. 8、53〕、安藤恭子「解説」269頁―285頁〔↓41〕、文献目録286頁―295頁

24 ワルトラワラ、第10号、ワルトラワラの会、98年11月

松田司郎「イーハトーヴ写真館⑩ 淵沢小十郎」6―12頁〔↓384〕、松田司郎「宮沢賢治のめざしたもの／第7回・扉のむこうへ 第2部・銀河鉄道の終着駅(3)」14―42頁〔↓175〕、牛崎敏哉「イーハトーヴ・異界への旅(10)オロチの異界性」43―51頁〔↓56〕、岡澤敏男「長編詩「小岩井農場」の原風景を歩く(6)」52―64頁〔↓73〕、藤原義孝「賢治植物考(連載第十回)・番外編／稲作指導の現場を歩く」65―72頁〔↓379〕、高山勉「イーハトーヴ星空

案内所―第四回・木星・土星など」73―79頁、板谷栄城「OPA Lの板の短歌」80―83頁〔↓49〕、中野由貴「イーハトーヴ料理館⑧イーハトーヴ料理を味わう」84―91頁

25 賢治研究、第77号、宮沢賢治研究会、98年12月

古澤由子「銀河鉄道の夜」授業体験」1―10頁〔↓224〕、小特集 第14回宮沢賢治研究会イーハトーヴ修学旅行 「賢治ゆかりの東京」バスハイク 遠田雅子・佐藤栄一・佐藤浩子・鈴木一夫・住田美知子・寺田豊子・中山泰雄・長沼士朗・根津道子・八田二三一・花岡 暉・松村彦次郎・三谷俊彰・三谷悠梨子・宮澤哲夫・渡辺悦子・渡辺守男11―20頁、佐藤栄一「そらや愛やりんごや風」―賢治紹介の欧州の旅―」22―24頁、三神敬子「宮澤賢治友への手紙」をめぐって(十四) 25―37頁〔↓180〕、宮沢哲夫「新刊めぐり」(26) 38―40頁、梅木万里子「花巻だより 二年続きの雨の賢治祭」41―45頁、村上英一「研究会だより」46―47頁、杉田英生「事務局雑編にかえて」48―49頁、宮沢哲夫「編集後記」50頁

26 ぶりきのメタル、第1号、ぶりメタ舎(花巻市)、98年12月

板谷栄城「ブリキの切り屑(一)」1―6頁〔↓50〕、梅木万里子「ヘイハトーブノスタルジア」イーハトーブに走った電車」7―20頁〔↓59〕、吉成信夫「たくさんブドリとネリのために―再定住の時代―」27―28頁、寺崎巖「トシのヴァイオリン」29―31頁、牛崎敏哉「ブリキのメタルの謎(1)」32―36頁〔↓58〕、板谷栄城「童話「どんぐりと山猫」の「はぎ合わせ」遊び」37―40頁〔↓51〕